

市民・市民団体が集う場として

平成19年4月開設

(仮称)新しい市民利用施設

平成16年から進められてきた(仮称)新しい市民利用施設の検討も、いよいよ開設へ向けての具体的な取り組みがはじまっています。新百合ヶ丘南口の旧あさひ銀行グランド跡地に建設中の昭和音楽大学やマンションと同時進行で進められているこの施設(写真)は、“麻生区を生活、活動の場としている人々がいつでも集まり、交流でき、また、情報を受発信したりできる活動の拠点”となることを目的としています。

開設時のスケジュール

平成19年4月3日の開設記念式典にはじまり、利用者向けの説明・懇談会(4月4日)、開設記念コンサート(4月7日)が予定されています。

また、4月13日まではイベント期間としてイベント参加者を募集します(4月5、6、9~13日)。

募集します

運営スタッフ・・・利用する人・団体を対象とした日常業務を担当していただける方。説明会は2月9日・10日午後1:30区役所会議室。

イベント参加者・・・イベントを企画実施する団体1月以降に募集をします。一般公募イベント「市民利用施設を開放します」1Fサロン「イベントひろば」健康体操などのイベント。2F会議室・フリースペース

ス『ギャラリー』美術品の展示。説明会1月16日(火)午後2:00から区役所会議室。

問合せ先：麻生区役所地域振興課(電話)965-5116

まもなく名称が決まります

新しい施設の名称を募集したところ、83案もの応募があり、現在選考が進められています。選考基準は「市民が親しみが持てて覚えやすい」ということ。名称は市政だより1月1日号で発表されます。

麻生まちづくり学校

がはじまりました。

→→→ テーマは『防災』

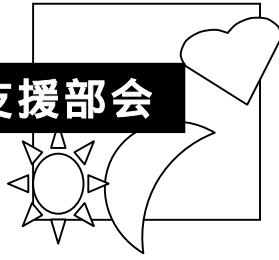
今からでも参加できます。皆さんの参加をお待ちしています。

スケジュールの詳しいことは3ページをお読みください。

申し込み先：麻生区役所地域振興課
電話) 965-5116



市民活動支援部会



『講座』や『相談の窓口』で 市民活動を支援

(仮称)新しい市民利用施設を活用して

10月末、企画審査に出された市民活動支援部会(以下支援部会)の新しい3つの企画書が承認され活動がはじまりました。

第一歩は「地域デビューへの招待状」

講座企画運営小委員会

11月の支援部会では、それぞれのリーダーから企画書の説明と意見交換が行われました。まず講座企画運営小委員会の守田リーダーからの説明。「講座企画」は来年度になってから本格的活動に入ります。それまでは19年4月開設の(仮称)新しい市民利用施設で円滑な活動に入るための準備です。つぎに市民活動団体と地域参加を志す市民とのコーディネート準備に取り掛かります。その第一歩は「地域デビューへの招待状」。講座の企画意図は地域社会の関わりを志す市民が容易に参加できるようにさらに新規メンバー受け入れ団体への支援 私たち市民活動支援部会は と の双方への橋渡し役 参加対象は現役引退し地域で活躍を志しているひとをはじめ、地域で何かをしたいひとあるいは市民活動団体 講座内容はワークショップあり、市民講師による体験談あり、さらに参加者が活動体験をしたり、見学する。また市民活動団体によるポスターセッションなども用意する。ざっとこんなイメージです。

(これについての討論)参加費について、個人からは徴収しないで、団体から一括して受領する、いや、今は個人からも参加費徴収の流れにあると思うが...。また地域で何かをしたいと考えているひとはたくさんいらっしゃるの、同様の講座を次年も次々年にも実施したい など話し合われました。

「活動の場の調査」と「人材の発掘・調査」

市民活動支援相談窓口小委員会

つぎに市民活動支援相談窓口小委員会の和田リーダーから「市民活動団体及び活動の場の調査」と

「市民活動で求められる人材の発掘・調査」のふたつのテーマが説明されました。これらのテーマを相談の材料にして相談窓口とします。そして(仮称)新しい市民利用施設に設置される相談窓口をサポートし市民活動を支援します。これにより市民活動への参加を容易にするのが目的です。

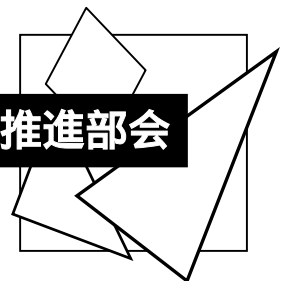
テーマ は、当面は活動団体の調査、活動の場の調査・発掘が主な作業で、さらには既存資料の補遺、補修などパソコンで資料作りをして誰でも相談の窓口で資料を取り出せるようにしておきます。現実性重視のため対象はぐんと絞り込みますが、全体はしっかり把握し該当する所へつなぐということを確認しました。作業の取り掛かりとして、絞り込んだ市民活動団体を分類して、同団体へ詳細調査アンケートを投函することを予定しています。また3月には相談窓口ボランティア研修の実施も考えています。

テーマ は市民活動団体が主催するイベント、セミナーなどで、プレーヤーの紹介、講師の紹介などと、相談を受けることで市民活動の活性化に寄与します。作業の取り掛かりとして、そのプレーヤー探しや了解取り、及び情報の一本化に取り組みます。

(これについての討論) 相談は苦情処理と取られないように。仕事は大変だけど、出来るところからやればよい。いつでも相談にのるのでなく相談の日、曜日を特定し、市民利用施設の相談窓口と連携するのがよい。ただボランティアは出演無料にとか、紹介の妥当性をどうみるかですが、自分たちの知っている地域の人脈から探していくのがよい など意見が出されました。

以上、いずれも(仮称)新しい市民利用施設が関係し、将来の活動舞台としているのが特長です。新しい2つの小委員会活動は来春をめざし新施設でのサポート活動が期待されます。

まちづくり推進部会



安全、安心なまちづくり

地域まちづくり支援小委員会

この小委員会は、地域内のまちづくりのために、住民との直接対話を主体に、情報の交換、研修などを協働して行う活動であります。したがって、住民主体のまちづくりに参画する人の増大を図ることを目指

しております。このために、当初は幾つかの小グループ（自治会、町会など）単位（モデル推進地区）から身近なテーマを見つけ出し、住みやすい「安全、安心なまちづくり」活動の発端とすることにしました。

スタートは18人のメンバーでコーディネーター活動から始めますが、活動は住民が主体となります。

「安全、安心なまちづくり」の身近なテーマでは、関心度の高いテーマとしては「防災」が上げられます。しかし、「防災」といっても一言で処理出来ません。災害の発生要因（地震、風水害、火災など）によっても異なり、また被災面（住宅型式、地形環境、集落様相など）からはその強弱が異なります。しかし、被災の度合いは住民の共有する「常時」の認識と「非常時」の対応とは、地域のコミュニケーションに頼るところが極めて大きい事実は、周知の事であります。

以上のような事から、該当地区の現在十分な点、課題となる点など、身近な事から抽出し、改善すべきこと、準備すべきことなどを、住民の共通認識を持って作り出すことが、「安全、安心なまちづくり」と位置づけております。

今後、まちづくり本校講座と連携しながら、3カ年計画をもって、活動して行く予定です。

麻生まちづくり学校 講座スケジュール

麻生まちづくり学校運営小委員会

今年度の麻生まちづくり学校は、防災をテーマに5回開催します。これは、防災に関心を持ち、防災まちづくりの裾野を広げ、地域の自主的な防災力の向上を図るリーダーシップがとれる人材の育成を目的としています。多くの方のご参加を期待します。

第1回（終了）

日時：平成18年12月16日（土）
午後2時～5時

場所：麻生区役所第3会議室
講座名：防災から見た麻生区の現状
講師：川崎市総務局危機管理室 職員

第2回

日時：平成19年1月20日（土）午後2時～午後5時
場所：麻生区役所第3会議室
講座名：災害の前にはできること（地震と木造住宅の耐震化などについて）
講師：川崎市まちづくり局指導部建築指導課 職員

第3回

日時：平成19年2月初旬（平日）
午前9時～午後5時を予定
場所：未定（小田原・平塚もしくは静岡市を予定）
*バスで移動

講座名：防災見学会

第4回

日時：平成19年2月24日（土）午前12時～午後5時を予定
場所：川崎市消防局・総合庁舎（川崎区）
*麻生区役所からバスで移動予定
講座名：被災後にできること
講師：川崎市消防局 職員

第5回

日時：平成19年3月17日（土）午後2時～午後5時を予定
場所：麻生区役所第3会議室
講座名：修了式（ほかにワークショップなどを予定）



『命』（日頃、防災に関心を持って地域の防災力向上を）

ボランティアマネー 麻生区に地域通貨を導入しよう

地域通貨小委員会

「地域通貨導入」の企画書は、12月初旬に「企画審査部会」の審査を経て「運営委員会」で、承認されました。企画書の内容を紹介します。

まず、目的として地域通貨の導入を通じてボランティアをやりたい人と、やって欲しい人をつなぎ、豊かで活気あるコミュニティづくりをすること。

次に区内にあるボランティアのグループ（町内会、自治会、商店会、公園愛護会、など）の活動の一助として地域通貨の導入を提案し、その実施の支援をすることを明記しています。

地域通貨の導入を実施している地域は、全国的には600箇所以上を数え、周辺では川崎区、都筑区（横浜市）、大和市等で、その地域の実態・実情に適合した形態・方法で実施されています。

これからの活動として、対象が大きく複雑なので、通貨の内容、実施地域、企画・制作の事務局の確定など、課題は多岐にわたります。

それだけに、調査・研究を重ね、年度毎の綿密な計画の下に活動していくことが望まれます。

（落書き消し小委員会活動は4面に掲載）

消して消しての粘り
次第に落書きも減って

落書き消し小委員会

麻生区から落書きをなくして、犯罪を未然に防ごう！と、「麻生まちづくり市民の会まちづくり推進部会」と「新百合ヶ丘駅周辺景観形成協議会」で結成されている「あさお落書き消し隊」が中心になって、行政4名、麻生警察4名、東京電力、王禅寺処理センター、建設センターの協力を得ながら総勢53名で11月18日午前9時から、新百合ヶ丘駅周辺50ヶ所の落書き消し作業が行われました。



「消してもすぐ書かれてしまう」との心配もありましたが、昨年に引き続き3回目の作業で、次第に落書きも減ってきました。当日は晴天にも恵まれて楽しく、「明るくきれいな街づくり」に一役買うことができました。

消したいと警察へ電話
「出前落書き消し」出動

「あさお落書き消し隊」は町会や自治会、そして地域の方々に消し方のノウハウを出張して説明する落書き消しの出前もしています。11月18日、上麻生2丁目の電柱6ヶ所、11月27日午前9時、前夜からの雨がまだ残る中、白山グリーントウン内で石垣や工事現場の柵に書かれた落書きを地元の自治会や有志の方に溶剤をかけ、タワシでこすり、雑巾で拭き取る方法を説明しながら、一緒に作業しました。

この日は、グリーントウンの住民の方々、麻生警察、白山中学校と、これから落書き消しに取り組む予定の中原区から参加した総勢21名で行いました。参加者からは「この溶剤は柑橘系の良い匂いがしますね」「よく落ちますね」「もう、書かないでほしいです」などの声が聞かれました。

白山の自治会から警察へ落書きを消したいとの電話があり、それを受けて警察が「あさお落書き消し隊」に依頼してきました。27日は「交番の日」なのでぜひこの日にしてくださいということで実現しました。今後も、出前は随時募集します。

「葉積緑地維持・管理活動」のその後

1期市民の会の活動成果のひとつに、「葉積緑地」維持・管理活動へ取り組んだ結果として、地域周辺住民による愛護会結成があります。3年にわたる懸命な、そして地道な活動を通し、周辺住民のみなさんの理解と協力関係が生まれました。そして、18年4月に「葉積緑地愛護会」の申請に至ったのです。それまで荒れ放題だった藤棚が愛護会の皆さんの努力で整えられ、片平小学校の課外学習の場になるなど、一步一步、地域と共にある公園になっています。

今後の予定（どなたでも傍聴できます）

- ・まちづくり市民の会運営委員会：1月22日(月)18時から
2月19日(月)18時から
- ・市民種枝会：1月10日(水)13時30分から
2月7日(水)13時30分から
- ・まちづくり推進部会：1月15日(月)18時30分から
2月5日(月)18時30分から

編集後記

目を地域に向けてみると、新百合ヶ丘駅中心に広がる北側も南側も開発の槌音で息づいてまいりました。新年は麻生区につぎのステージ幕開けです。ひとつ南側をみますと、4月開校の昭和音大の建物が巨大な容姿をみせています。そしてその敷地内南東の片隅に、かわいらしく2階建ての建物が目に入ります。まさにこれが待ちに待った市民要望の集いの場で、4月にオープンを待ちます。1面に採り上げました。本年も何卒よろしく願います。(NY)